

《担当者名》 池森 康裕 sr528@hoku-iryo-u.ac.jp 高橋 由紀 下山 美由紀

【概要】

障害レベルに応じて求められる個別生活支援技術の適正な用い方について習得するとともに、利用者のニーズに対応した支援（介護）方法について、生活課題の発見と解決方法について考察できるようにする。

【学修目標】

1. 「人」の理解と同時に「生活」の理解を深めるため、そこにおける「生活の支援」とは何か、どうあるべきかについて考察できる。
2. 個別介護を目的とする情報収集・アセスメントを行い、生活上の課題を明確にすることができる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1週目	実習施設の理解 利用者の理解 担当利用者の決定	施設の特徴、利用者の特徴、職員の職種、施設構造の特徴、日課、週間スケジュール、年間行事などを把握する。 記録の機能と目的について知る。 基礎的な日常生活の援助をしながらコミュニケーションのとり方など基本的介護技術を実践する。 指導者に希望や想定している個別介護計画の概要やその考えを伝え、助言を得る。 担当する利用者を決定する。 カンファレンスを行う	池森 高橋 下山
2週目	補助を受けながら基本的介護技術を実施 担当利用者の情報収集	基礎的な日常生活の援助を通し、利用者の生活支援（介護）の実際を学ぶ。 介護職員の業務内容とその役割について知る。 職員と行動を共にすることにより、行われている介護を考察し、この行為の意味や根拠が理解できる。 日々状況が変化する利用者の観察ができ、記録・報告することができる。 観察の技術を用いて、担当する利用者の観察ができ、記録・報告することができる。 他職種の役割を知り、医療、福祉、他機関との連携方法について学ぶ。 カンファレンスを行う	池森 高橋 下山
3週目	基本的介護の実践 担当利用者の生活課題の分析	利用者の観察に基づき、日常の基礎的介護を安全・安楽、自立に配慮して実践する。 クラブ活動、レクリエーションなどの意義の理解と活動へ積極的に参加する。 生活向上への工夫を学ぶ。 カンファレンスを行う	池森 高橋 下山

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表30%、実習の記録、カンファレンス、課題・計画など70%とし、これらの項目を総合し評価する。

【教科書】

特に使用しない

【参考書】

介護福祉士養成講座編集委員会（編）：最新・介護福祉士養成講座10『介護総合演習・介護実習 第2版』中央法規 2022

【備考】

この科目は介護福祉士国家資格取得のための領域「介護」の教育内容「介護実習」に該当する

【学修の準備】

事前学習した内容を実習場面において統合化できるようにする。

【ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

DP2,1,3,4

【実務経験】

池森 康裕（介護福祉士・社会福祉士）、高橋 由紀（介護福祉士）、下山 美由紀（看護師）

【実務経験を活かした教育内容】

臨床および地域での介護分野の専門職としての実務経験を活かし、実践的教育を行う。